

授業科目名	社会福祉援助技術演習		担当教員名	入江 実
科目区分	社会福祉主事任用資格に関する科目	施行規則に定める科目区分 等		
必修-選択/単位数	選択 / 4単位 (60時間)	授業方法/担当形態	演習 / 単独	
開講学年/学期	2年 前期 (1-2期) / 年間開講数 1講座	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 児童養護施設主任児童指導員としての実務経験を活かして、具体的な実践記録を紹介して授業を行っている。	
授業の概要及び全体目標	社会福祉実践を展開する上で必要とされる社会福祉援助技術の3領域(①直接援助技術、②間接援助技術、③関連援助技術)を教科書に沿って学習しますが、その際学生に課題設定をし、学生自らレポート等により発表する形式で学習する。			
到達目標	(1)習得した社会福祉援助技術の理論、技術を演習し、応用能力を向上させる。 (2)演習を通じて、具体的に人権の尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。			
テキスト	「ソーシャルワーク演習」はじめてのソーシャルワーク演習編集委員会 編 (ミネルヴァ書房)			
参考書・参考資料等	指定せず			
成績評価の方法	○日常生活活動：505% ○レポート・授業内試験：50%			
授業外(事前・事後)学習の方法、オフィスアワー等				
授業計画	授業の内容			到達目標番号
第1回	開講にあたって			(1),(2)
第2回	第2章 ソーシャルワークの展開 2.人間(個人)の理解(p.68)			(1),(2)
第3回	同章 3.面接技法②-適切な姿勢と態度を理解する (p.72)			(1),(2)
第4回	同章 4.面接技法③-基本的応答技術を理解する (p.76)			(1),(2)
第5回	同章 5.ソーシャルワークのプロセス②-ワーカーの役割を理解する (p.80)			(1),(2)
第6回	同章 6.グループワークにおけるワーカーの役割 (p.84)			(1),(2)
第7回	同章 7.グループワークの技法① 「準備期」「開始期」の介入方法を理解する。(p.88)			(1),(2)
第8回	同章 8.グループワークの技法② 「作業期」「終結期」の介入方法を理解する。(p.92)			(1),(2)
第9回	同章 9.コミュニティソーシャルワークのプロセス (p.96)			(1),(2)
第10回	同章 10.アウトリーチ (p.100)			(1),(2)
第11回	同章 11.チームアプローチ (p.104)			(1),(2)
第12回	同章 12.コーディネーション (p.108)			(1),(2)
第13回	同章 13.ネットワーキング (p.112)			(1),(2)
第14回	同章 14.社会資源の活用・調整・開発 (p.116)			(1),(2)
第15回	同章 15.中間まとめ-自己評価の言語化と課題の明確化を図る			(1),(2)

授業計画	授業の内容	到達目標番号
	授業の内容	到達目標番号
第16回	第3章 ソーシャルワークの実践 2.インテーク (p.130)	(1),(2)
第17回	同章 3.アセスメント (p.134)	(1),(2)
第18回	同章 4.プランニング (p.138)	(1),(2)
第19回	同章 5.グループワークの準備期 (p.142)	(1),(2)
第20回	第3章 6.グループワークの開始期 高齢者支援における展開② (p.146)	(1),(2)
第21回	同章 7.グループワークの作業期・終結期 (p.150)	(1),(2)
第22回	同章 8.問題の発見とニーズの把握 (p.154)	(1),(2)
第23回	同章 9.アセスメントの実施と地域ニーズの分析 (p.158)	(1),(2)
第24回	同章 10.ネットワークとコーディネーション (p.162)	(1),(2)
第25回	同章 11.多くの問題を抱える家族の把握 (p.166)	(1),(2)
第26回	同章 12.本人主体のサポートシステムの形成 (p.170)	(1),(2)
第27回	同章 13.「個」を支える「地域」の形成 総合的・包括的なソーシャルワークの展開 (p.174)	(1),(2)
第28回	同章 14.家族全体に対する支援プランの作成 (p.178)	(1),(2)
第29回	同章 15.まとめー自己評価の言語化と課題の明確化を図る	(1),(2)
第30回	全体まとめ	(1),(2)